



さんびいけど、  
あったけえ。

まつり期間中は天候に恵まれ、26 万人もの人が来場。雪燈籠や雪像の前で写真を撮ったり、すべり台ではしゃいだりと、思い思いにまつりを楽しむ人で賑わい、温かい雰囲気に包まれていました。



①錦絵の明かりが人々を照らす／  
②たくさんの人で賑わう大雪像前  
／③来場者を迎える雪燈籠／④  
キャンドルが灯る道を歩く／⑤二  
人の笑顔をスマホに残す／⑥温か  
な光が浮かび上がるミニかまくら  
／⑦幻想的な大雪像プロジェク  
ションマッピング／⑧雪像と一緒  
にハイチーズ！／⑨ピンク色にラ  
イトアップされた桜の木／⑩雪の  
アートに挑戦／⑪すべり台で大興  
奮！



ずっと変わらない  
市民が作る雪のまつり

春には色とりどりの桜が咲き誇り、訪れる人に驚きと笑顔を与える弘前公園。1918 年（大正 7 年）から始まった観桜会（さくらまつり）や、1962 年（昭和 37 年）に始まった菊と紅葉まつりに続き、冬に

も弘前公園での楽しみを作ろうと「弘前城雪燈籠まつり」が始まったのは 1977 年（昭和 52 年）のことでした。

ただ見るだけではなく、「市民がつくるまつり」を目指して始まったこのおまつり。始まってから 40 年以上経った現在も、園内各所にある個性豊かな雪燈籠や雪像は、市内の小・中・高校生をはじめ、各種団体の協力によって、一つ一つ手作業で作られあげられています。

昼には多くの子どもたちが雪で作られた大すべり台を楽しみ、夜になるとほのかに灯る温かな燈籠の光が人々の心を癒やす——。「弘前城雪燈籠まつり」は弘前ならではの雪を楽しむ冬の行事となっています。



▲第 1 回目の雪燈籠まつりの大雪像は弘前城天守と津軽為信がテーマ。当初から完成度の高さがうかがえる